



▲学生時代の濱田教授（写真1番右）。第1回の蒼天祭では「初代ミスター体大」に選ばれた。



鹿屋体育大学1期生
はまだ こうじ
濱田 幸二 教授

熊本県出身。鹿屋体育大学第1期生として入学し、同大学院を修了。平成4年に同大学の助手に就任。現在は学長補佐で男女バレーボール部の監督。最近のマイブームは胡蝶蘭の育成。

「面白い大学に通いたい」そう思って開いた大学雑誌に掲載されていた、鹿屋体育大学の完成予定イラストが今でも印象に残っています。

まだ大学が完成していなかったため、入学試験は鹿屋女子高校で行われ、面接や小論文の他に基礎運動試験も行われました。

入学してまず驚いたことは、世界でも活躍している人物が教鞭を執ってくれたことです。座学だけではなく実技の授業もあり、その方々の技術を生で見られたことはとても嬉しかったです。また、体育学実験という授業では、心電図や筋電図、最大酸素摂取量測定装置といった機器を用いて計測を行うなど、運動を科学的に学ぶための取り組みが数多く取り入れられていました。

入学当初はグラウンドがまだ整備されておらず、学生たちで芝生を植えたり、学生が発案した学生寮フロア對抗の体育祭や、ソフトボール・バレーボールの学内スポーツ大会など、先生に負けず劣らず学生たちがエネルギーギッシュでした。

第1期生ということで学校の先輩はいませんが、地元の方々にかわいがっていただき、まさに地域の人々が先輩として私たちを支えてくれました。県外から来た私たちを受け入れてくれる鹿屋の人たちは器が大きいと感じました。

開学40周年という大きな節目を迎える鹿屋体育大学ですが、地域密着型の国立大学として、これからも健康・スポーツのリーダーであるべく頑張っていきます。

1期生の思い出

37年前に入学した第1期生が当時の思い出を回想



1986

開校後もグラウンド整備などが進められた

1981
鹿屋体育大学建設前

スポーツで未来を創る

鹿屋体育大学 開学40周年

鹿屋体育大学は、昭和56年に国内初の国立体育系単科大学として開学し、令和3年10月で40周年を迎えます。

体育・スポーツを科学的に研究し、その結果を基に実践的なリーダーを養成する使命を持つ同大学。40年の歴史を振り返るとともに、現在の取り組みや今後の展望について伺いました。

【沿革】

昭和48年 11月



大学誘致推進委員会の設置
昭和49年には教員養成大学誘致大隅地区期成会が発足し「大隅に大学を」を合言葉に誘致活動を実施



56年 10月
59年 3月



鹿屋体育大学開学初の入学試験
先だって実施された推薦選抜試験の倍率は9倍以上になり、一般第2次選抜試験倍率は約4倍。面接や小論文などのほか、大学独自の基礎運動能力調査も試験として実施

4月



第1回 入学式

男子121人、女子29人の計150人が入学。学内の総合体育館で入学式は執り行われた。同年5月には開校記念式典及び祝賀会を開催

62年 10月
63年 3月



第1回 蒼天祭（大学祭）
第1回 卒業証書授与式

130人の学士が卒業し、同年4月に大学院修士課程の第1回入学式を実施。大学院には19人が入学

平成2年 9月



水野講堂竣工

スポーツ用品会社の会長から寄贈されたもので、その名が冠された講堂。大小2つのホールなどを備え、以降はここで入学式や卒業式などの式典を開催

16年 4月
8月



国立大学法人へ移行
柴田亜衣選手金メダル獲得

アテネオリンピックで、当時4年生だった柴田亜衣選手が競泳女子800m自由形で金メダルを獲得。5日後に鹿屋市へ凱旋し、祝賀パレードなどが実施された

18年 2月
22年 10月



NIFSスポーツクラブ設立

鹿屋市と「包括的な連携に関する協定」を締結
教育・スポーツをはじめ様々な分野で大学の持つ知見等を活用したまちづくりの実現に向けて、調査・研究や事業に取り組むために協定を締結

27年 3月
令和3年 10月

スポーツパフォーマンス研究棟竣工
開学40周年
(6ページに関連記事)